

「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム（案）」県民説明会 第4学区：成田会場

- 1 日 時：令和4年8月2日（火曜日）午後6時30分から午後8時30分まで
- 2 場 所：成田国際文化会館 小ホール
- 3 内 容：「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム（案）」の説明と意見聴取
- 4 参加者：36名
- 5 主 催：千葉県教育委員会

意見聴取の概要

普通科及び普通系専門学科・コース

- Q 保育職や介護職は、処遇が低いため人材が不足している。コースを設置するのは生徒からの要望ではなく社会からのニーズに応えるためではないのか。
- A 実際にその職に就く子は多くはないため、人材は不足しており、その理由は処遇や世間のイメージ、親の思いなど様々あります。しかし、子供たちからの希望は多くあるため、今後も拡充していきたいと考えております。
- Q コースで学んでも資格が取れるわけではなく、就職口も少なく、結局違う道を選んだという声もある。キャリア教育・職業教育についてどう考えているのか。
- A 千葉県は普通科進学傾向にあります。小中学校と連携して、仕事の魅力を知ってもらい、その職に就くための学科やコースがある高校で学びたいと思ってもらえるよう、更に取り組んでまいります。

職業系専門学科・コース

- Q 工業系の学校においては、機械や設備の不足、教員の配置状況など様々なマイナス面があるが、どう考えているのか。
- A 設備について、コースとして行うには十分な程度には整えています。教員の配置については、国からの加配がつかない状況であるため、学校運営に支障がないよう学校と相談しながら行っております。

総合学科

なし

社会のニーズに対応した教育

- Q 通信制高校は千葉大宮高校1校のみだが、私立はどんどん増えている。新たな過程を設置する必要があると思うが、予定はあるのか。
- A 現在は、千葉大宮高校を中心に、館山総合高校を協力校として成功している状況です。県北東部に銚子商業高校も加え、更に拡充していきたいと考えております。新規設置については、御意見として承ります。
- Q 日本語指導が必要な子供たちが増えていて、進路指導が困難となっている。配慮しているプランなどあるか。
- A 三部制定時制・通信制・地域連携アクティブスクールについては、きめ細かく対応できると考え

ております。

全日制高校の適正規模・適正配置

- Q 地域連携協働校は、何校程度、いつ頃、どのような手順で指定する予定か。
- A 指定する学校数は現在未定であり、これから検討してまいります。時期は、今後皆様に御理解をいただいた上で、「第2次実施プログラム」以降に具体的に指定していきたいと考えております。
- Q 学校が統合した場合、どのような形で存続することになるのか。
- A 例を挙げると、A校とB校が統合して、新たにC校ができるイメージです。A校とB校のより良いところや、伝統として残していくところを残していきます。A校もしくはB校の廃校ということではありません。
- Q 地域連携協働校について、どのように地域とつながっていくのか。
- A 学校運営協議会制度（コミュニティスクール）などにより、地域・保護者・企業などが学校と手を取りながら学校運営に参画していくというイメージです。地域によって様々な特徴や産業がありますので、地元で育てた子が地元で活躍してくれるような子供たちを育てることのできる学校にしていきたいと考えております。
- Q 統合は、実際に一つの学校をつぶしている。「統合」ではなく「統廃合」ではないか。
- A 「統廃合」ではなく「統合」です。子供たちにとって、ある程度の学校規模は必要だと考えます。それぞれの学校の良いところを持ち寄りながら規模を大きくして、活力ある学校生活が送れるように、今後も検討してまいります。
- Q 適正規模について、都市部は6～8学級、郡部は4～8学級としているが、その根拠は何か。
- A 全国的に多くの都道府県でそのような規模で行っております。

全体

- Q 2プロ以降、今までになかったコース等を設置する予定はあるのか。
- A 今後検討してまいります。先日行われた中高交流会での子供たちの意見も、参考にしたいと考えております。

その他

なし

要望・感想

- 第4学区は生徒募集に苦しんでいる。都市部への流出を防ぐために都市部の統合を進めていただき、地元の子が地元で学べる環境を作っていただきたい。
- 地域協議会の開催について、全ての学区で10年間継続して行ってほしい。また、メンバーを公募し、手を挙げた人を入れてほしい。それが難しいなら、非公開ではなく公開で行ってほしい。
- 教員が不足している中、コース設置は嬉しく思っている。魅力あるカリキュラムの充実を図っていただきたい。
- STEAM教育について、工業高校でもそれに近いことをやっている。ぜひ2プロ以降検討していただきたい。
- 今年からコミュニティスクール制度を始めた。公立高校は、経済的に困難な子にとって必要な場

所である。地域連携協働校の指定を目指していきたい。

- 県民説明会と言いながら教職員や公務員の参加者が多く、教職員の集まりのように感じる。本当に県民の声が届くのか。